

しのみや

杉並区立四宮小学校

平成23年12月22日

年の終わりにあたって

副校長 見米 宏

いよいよ12月。3月11日の大震災で防災やエコに関する意識が高まった1年が終わろうとしています。来年はどのような年になるでしょうか。ところで、日本では年末にかけてさまざまな習わしがあります。いくつか挙げてみたいと思います。

<煤払い>

いわゆる大掃除のことで、現在でも寺社仏閣においては「煤払い」と呼んでいます。一年分の汚れをきれいに取り除くことによって、新たな年に年神を迎える準備でもあり、来る新年を新たな心持ちで始めるという意味もあります。煤払いはもともと12月13日に行うことになっていて、昔はこの日に門松やお雑煮を炊くための薪など、お正月に必要な木を山へ取りに行く習慣があったそうです。

<年越し蕎麦>

12月31日に縁起を担いで食べられる蕎麦で、地方によって「みそか蕎麦」、「大年そば」、「つごもり蕎麦」、「大晦日蕎麦」、「年取り蕎麦」、「年切り蕎麦」、「縁切り蕎麦」、「寿命蕎麦」、「運蕎麦」、「福蕎麦」、「思案蕎麦」とさまざまに呼ばれています。年越し蕎麦の由来とされる説は「細く長く達者に暮らせることを願う」というものがもっとも一般的ですが、他に「蕎麦が切れやすいことから、一年間の苦労を切り捨て翌年に持ち越さない

よう願った」という説や、年末に家族そろって食べることが多いことから、「末長く、そばにいたいから」という説などさまざまです。食べるタイミングも大晦日の夜食べるというのが一般的ですが、地方によっては元旦の朝に食べる場所や、「太く長かれ」と蕎麦ではなくうどんを食べるところもあるそうです。

<除夜の鐘>

12月31日の夜のことを除夜と言います。この日の深夜0時を挟む時間帯に108回梵鐘をつく習わしのことを除夜の鐘と呼びます。なぜ、108回なのかについては様々な説がありますが、人間の煩惱の数は108だからというのがよく聞く話です。

かつては、除夜は年神を迎えるために一晩中起きていた習わしがあり、この夜に早く寝ると白髪になるとか、皺が寄るとかいったとも言われています。

以上の挙げた3つの習わし「煤払い（大掃除）」「年越し蕎麦」「除夜の鐘」にはいずれも気持ちを新たに新しい年を迎えようという昔の人の知恵が感じられます。皆さんのお宅でも、気持ちを新たに新しい年を迎えていただきたいと思います。それでは、よいお年を。



ゆく年、くる年、ご家族揃ってよい年をお迎えください。